

# 高知大生ら運営子ども食堂「こじゃん家」スタート

高知大生らのボランティアサークルが5月から、高知市曙町1丁目の朝倉ふれあいセンターで子ども食堂「こじゃん家」の運営を始めた。子どもたちに食事や遊び、学習支援の場を提供しており、代表の滝本希さん(21)は「親子にとつての第3の居場所をつくりたい」と意気込んでいる。

## にぎやかにカレーライス

活動を始めたのは、高知大、高知県立大、高知工科大の学生66人が所属する「高知BBS学生会サークル」2024年10月の発足以降、青少年の非行防止や更生保護に取り組んでいる。

その一環で昨年4月に「こども食堂こうち」(同市中万々)と連携し、高知大近くの佛寺で、子どもたちに食材の提供や学習支援の場を設けた。月1回の活動を重ね、食堂運営に関する知識や経験を

## 代表「親子に第3の居場所を」

蓄積。メンバーも増え、同10月にサークルだけで実施しようとした。準備を進めてきた。

人と人とのつながりや笑顔がたくさん生まれる場にした。と、土佐弁の「こじゃんち」を当てた。初回はカレーライスを。子どもや保護者ら15人と大学生が食卓を囲み、「キャベツが入っちゃう、家のカレーにも入りたい」「おいしい!」と和気あいあい。子どもたちは大学生とカードゲームやボール遊びで大はしゃぎし、保護者らがにこやかに見守った。

家族4人で訪れた中司真理恵さん(31)「同市」は「大学生という第三者が関わってくれ、親も子も心にゆとりを持って過ごすことができて助かる」と笑顔。滝本代表は「大人と子どもの間にいる大学生ならではの関わり方がある。身近なお姉さんやお兄さんとして一緒に楽しみたい」と話していた。

こじゃん家は毎月第3木曜日の午後3〜8時。食事提供時間は午後5時半〜7時半。申し込みは同サークルのインスタグラムから。

(高橋遥)